

第 64 回近畿高校バドミントン選手権大会県予選
兼
第 46 回全国高校選抜バドミントン大会県予選会（一次予選）

於 和歌山県立体育館

8月24日（木） 男子団体

1回戦 対 紀央館高等学校 2-3

8月24・25日（木・金）

男子ダブルス

多禰茉奈都（2A）・吉田伊吹（2D） **ベスト 32**

1回戦 対 有田中央高校 2-0〔21-8/21-8/-〕

2回戦 対 那賀高校 2-0〔21-2/21-7/-〕

3回戦 対 紀央館高校 0-2〔12-21/18-21/-〕



8月25・26日（金・土）

男子シングルス

梶本翔太（2D） **ベスト 32**

1回戦 対 近大和歌山高校 2-0〔21- 9/21-14/-〕

2回戦 対 星林高校 2-0〔21-17/21-14/-〕

3回戦 対 神島高校 2-0〔21-16/21- 7/-〕

4回戦 対 耐久高校 0-2〔 6-21/ 4-21/-〕



先輩達が引退して、新チームとして初めての大会が、今回の近畿大会県予選会でした。

今回の大会は、近畿大会への出場権を得るための予選会で、僕たち2年生にとって、近畿大会に出場できる最後のチャンスでもあり、どれほど大切な大会であるかはわかっていたので、総体予選が終わってから、夏休み中もずっと練習試合や合宿に努力してきました。特に今年は、大会前日まで合宿を行って頂くことができ、後は大会本番で、これまで得た経験やアドバイスを生かして、全力を出し切るだけの状況でした。

迎えた大会初日は、団体戦と個人戦のダブルスベスト 32 までを決める試合が行われました。今回から団体戦については、当日抽選の形式になったため、対戦相手はその時まで分からないままでしたが、今までの力を全て出すことだけを考えていました。抽選の結果、対戦校は紀央館高校と決まり、そこから1回戦を突破するためのオーダーを考えました。対戦校の実力的に競り合うことは分かっていた。だからこそ、キャプテンである自分が絡む試合は、決して負けてはいけないという強い気持ちを持って、試合に挑みました。しかし、その勝たなければならないプレッシャーや会場での大きな声援に飲み込まれて、大切なダブルスの試合のポイントを取ることができませんでした。2つのダブルスを落とし、後がなくなってしまったシングルスで、2つポイントを取り返し、最終ゲームまでもつれ込みました。しかし最後のシングルスで負けてしまったので、1回戦を突破することはできませんでした。この時、ダブルスのポイントを取ることができなかったことに対して、大きな後悔が残りました。

ダブルスの個人戦においては、3回戦に大きな山場がありました。夏の練習試合の時には勝ったことはありませんでした。今回は絶対に勝つという強い思いを持って戦いましたが、1セット目から全然足が動きませんでした。2セット目は悔いが残らないように頑張ろうと、必死でシャトルを追いかけました。18-18の後のラリーにおいて、チャンスを生かし切れず、流れが対戦相手にいってしまい、勝ち切ることはできませんでした。絶対に近畿大会に出場すると思っていたのに、その目標を達成することができませんでした。その後のシングルス戦においても、僕は2回戦で負けてしまい、近畿予選会は終わりました。チームとしても、誰一人近畿大会への出場権を獲得することはできませんでした。

大会が終わった今、結果を振り返ると、いつもの力を出し切れなかった…それはやはり、普段の練習から大会を意識し、緊張感のある練習を行っていなかった、そこが本当に一番足りなかった部分だと思います。これから僕たちに残された公式戦はたった2回しかありません。その2回しかない大会に向けて、普段の練習から緊張感を持ち、大会を想定した練習をしていくことを心がけていくことで、今回の大会のように自分たちの力を出せずに終わるといことがなくなると思います。自分たちの最高のプレーをしていくためにも、これまでの取り組みに対して、きちんと反省し、変わる努力を重ねていきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

バドミントン部 キャプテン 多禰 茉奈都